

シリーズ「グローバル・ジャスティス」
第11回

日朝関係から考える 東北アジアの平和

石坂 浩一

立教大学 異文化コミュニケーション学部 准教授

今回の東日本大震災では、世界各国から日本に対し支援が寄せられましたが、朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)も例外ではありませんでした。かの国の政府のことは置くとしても、在日の親族を持つ朝鮮の人びとは、在外日本人と同様に心配し、心を痛めたにちがひありません。一方で日本は、放射能汚染を東北アジアをはじめとする世界へ及ぼしてしまう結果となりました。今後、放射能の汚染が東北アジアでどのような影響を生むか、軽視することはできないでしょう。経済的な相互影響があることは言うまでもありません。被災して亡くなった人やいまだに不自由な生活を強いられている多くの人びとが日本社会に存在することは事実です。しかし、今回の大地震は、ひとつの国の災害が決してひとつの国にとどまらないものであることをあらわしました。東北アジアで、いや世界でほとんど唯一日本が国交を持たない国のことを、この機会にもう一度考えてみませんか。核と平和を中心に北朝鮮の現状分析も含めて議論したいと思います。

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科では、連続セミナー「グローバル・ジャスティス」を開催いたします。このセミナーは、現代世界が直面するさまざまな課題における「ジャスティス」の問題を、講師が自らの視点で語っていくものです。したがって、どのような視角で、何を問題としてジャスティスを論じるかは講師にゆだね、主催者は一切の方向性をあらかじめ規定いたしません。ジャスティス(正義)という言葉のもつ多義性や問題性もふくめて、多様な議論の場として提供していくものです。

日時：5月12日(木)

18:30-20:00

会場：博遠館 212 番教室

共催：同志社コリア研究センター

来聴歓迎・予約不要

同志社大学
グローバル・スタディーズ研究科

tel. 075-251-3930

e-mail. ji-gs@mail.doshisha.ac.jp